

皇居外苑の現況

1. 国民公園 皇居外苑の概要



(1) 全体の概要

- ・面積：115.1ha（東西約 1.7km、南北約 2.2km）
- ・「旧皇室苑地の運営に関する件」（昭和 22 年 12 月閣議決定）に基づき、昭和 24（1949）年 4 月から旧皇室苑地の宮 城 外苑を国民公園皇居外苑として一般に開放している。
- ・旧皇室苑地を引き継いだ由緒ある公園であり、我が国を代表する象徴的な公園である。
- ・広大な緑地に豊かな自然や優れた景観を備え、都心のオアシスとして人々の憩いの場となっている。
- ・北の丸地区は、「皇居周辺北の丸地区の整備について」（昭和 38 年 5 月閣議決定）に基づき整備が進められ、昭和 44（1969）年 4 月から国民公園として一般に開放している。

(2) 皇居外苑地区造営の特徴

①明治時代

- ・皇居外苑地区に該当する場所は、江戸時代には「江戸城西丸下」と呼ばれ、大名屋敷が立ち並んでいた。明治維新による江戸城開城後、明治宮殿御造営後の明治 21 (1888) 年頃までに、旧大名屋敷等の建物の大部分は撤去され、広場となった。
- ・当時のこの場所への樹木植栽は、明治 10 (1877) 年 11 月に東京府知事楠本正隆が内務卿大久保利通にあてて提出した「皇城周囲堀端へ樹木栽付費金別途下渡之儀」に記録があり、樹陰をつくり清爽の環境とするため、皇居周囲の濠端に、カエデ、ヤナギ、クルミ、マツを延長 2364 間 (約 4298m) にわたって植栽するべくその費用の下げ渡しを要請している。
- ・旧大名屋敷等の建物の撤去が進んだ明治 21 (1888) 年には、広場への野芝張工事が行われている。
- ・日露戦争時の明治 37 (1904) 年、九連城^{くれんじょう}陥落を祝う祝賀行列が馬場先門と桜田門を入ろうとして多数の人びとが押し寄せ、死傷者が出る惨事がおきた。これを機に政府ならびに東京府・東京市は将来を考慮し、皇居前広場を公園式に改めるとともに、桜田・馬場先・大手の 3 ヶ所の濠の一部を埋め立て横断する道路を開く議が起り、明治 37 (1904) 年 10 月、東京市区改正新設計の第一等道路第一類中に、現在の皇居外苑地区の中央を南北に通ずる道路計画が追加された。この計画に基づき、明治 38 (1905) 年に建設されたのが「凱旋道路」(現在の内堀通り) である。

②大正時代

- ・大正期にはいり、皇居外苑地区は、日本の伝統的景観である白砂青松を想起させる空間として、黒松と芝生による、現在の風景の原型が作りだされた。大正 6 (1917) 年、宮内庁内匠寮御用掛となった原^{ひろし} 瀧 東大名誉教授・農学博士は、宮内大臣波多野敬直に建白書を提出し、皇居前広場の疎林の主木を「黒松が最も然るべきである」として、整備が進められ、東京市公園課長井下清が施工にあたった¹。
- ・大正 12 (1923) 年には、関東大震災後の震災復興事業として行幸通りが建設された。

③昭和時代 (戦前)

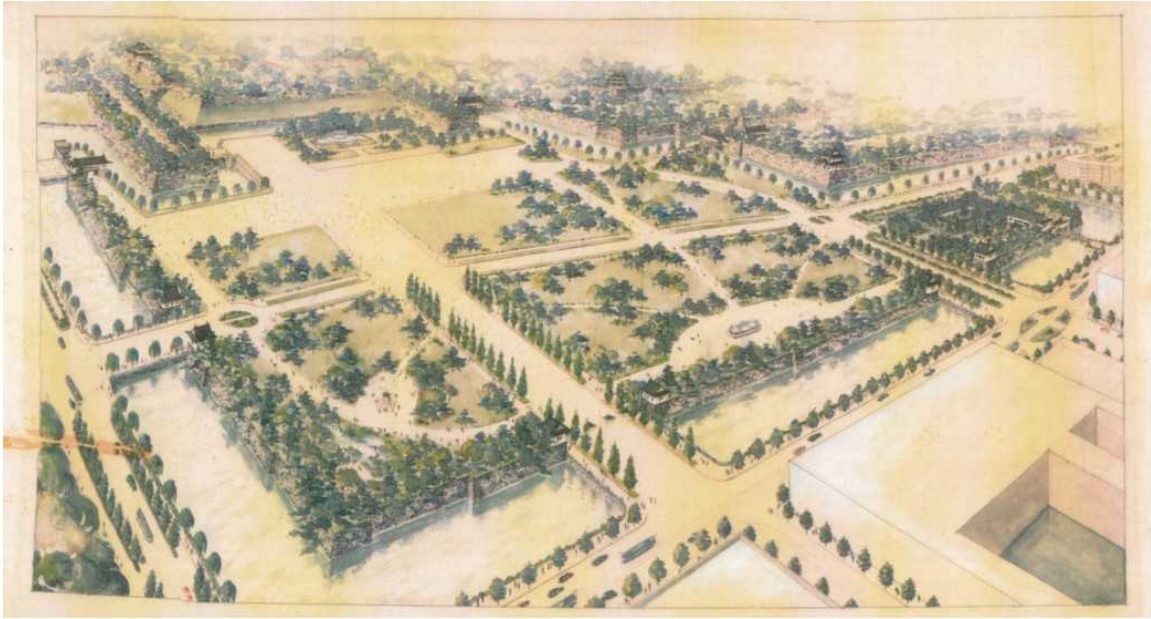
- ・昭和 14 (1939) 年から東京市が「莊嚴にして典雅、静謐にして清浄なる聖域の造成」²をコンセプトに「紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業」を実施。「自動車、自転車の織る

¹ 「原瀧の足跡－日本のランドスケープアーキテクト」(平成 13 年 佐藤昌) より 資料提供：石川幹子氏

² 「東京市紀元二千六百年奉祝記念事業志」(昭和 16 年 3 月 東京市役所) 第三篇 第五章 紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業奉賛会趣意書より 資料提供：石川幹子氏

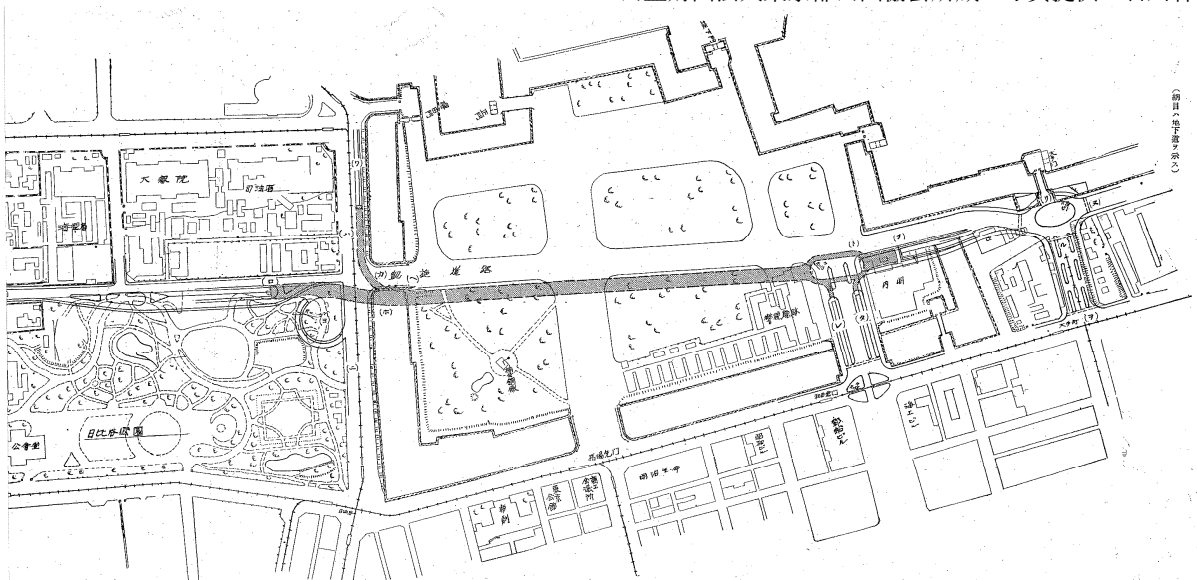
が如き交通に委せられ、森厳なるべき宮城外苑の風致と静穏とを害すること甚大なる」³ 凱旋道路を地下化するとともに、それまでの景観を大きく変えることなく、広場、植栽等を整える計画が進められた（凱旋道路（現在の内堀通り）の自動車交通量は昭和 9 年、10 年の調査で 25,000 台/日⁴、令和元年の調査で 33,750 台/12 時間⁵の記録がある）。

- ・しかし、広場と植栽の土木・造園的工事が行われる最中、日中戦争からの戦況急変等の影響もあり、昭和 18（1943）年 7 月に実質上の事業休止となり、凱旋道路の地下化は実現されなかった。



紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業 計画図

公益財団法人東京都公園協会所蔵 写真提供：石川幹子氏



紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業に伴う皇居前広場地下道計画

出典：「紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業概要」昭和 14 年 東京市

³ 「東京市紀元二千六百年奉祝記念事業志」（昭和 16 年 3 月 東京市役所）第三篇 第一章より 資料提供：石川幹子氏

⁴ 「宮城外苑地下道計画案に就いて」（昭和 14 年 山田正男）より 資料提供：石川幹子氏

⁵ 「交通量統計表」（令和元年 警視庁）より、大手門交差点における坂下門方向流入・流出台数の合計値を算出

④昭和時代（戦後）～現在

- ・昭和 24（1949）年 4 月、国民公園皇居外苑として一般に広く開放されることとなり、また昭和 27（1952）年には、千代田区営千代田グランドとなっていた和田倉エリア一帯が所管換により国民公園皇居外苑の敷地に加わった。
- ・和田倉エリアは昭和 28～32（1953～1957）年度までの間に、張芝・樹木植栽が行われたが、昭和 36（1961）年に明仁皇太子（現在の上皇陛下）ご成婚を記念して噴水施設がつくられたのち、徳仁皇太子（今上天皇）のご成婚を機に平成 5（1993）～6（1994）年度に和田倉噴水公園として整備され、休憩所も置かれている。
- ・一方、楠公エリアでは、二重橋参りの人の増加に対応して、昭和 26（1951）年に休憩所が建設されたほか、昭和 34（1959）年度には、楠公像周辺や馬場先エリアにかけての歩道の舗装工事が完了した。
- ・昭和 30 年代以降には、周辺を走る自動車の排気ガスやばい煙等の影響により多くの松が枯れたため、新たなクロマツ補植が行われた。そのほか、主に濠端の土堤上や内堀通りの東側を中心に、ケヤキ、クスノキ、タブノキ、マテバシイ、モチノキ等の広葉樹も補植されるようになった。

参考：「皇居外苑」（昭和 56 年 前島康彦）

「皇居外苑誌（皇居外苑風致考）」（昭和 43 年 池辺武人）

「事務提要[国民公園]」（環境省自然環境局総務課）

(3) 歴史的遺構・文化財

- ・江戸城、旧皇室苑地という歴史を経て、濠や石垣、城門などの歴史的遺構が特徴的な景観をつくりだしている。
- ・文化財としては、以下の 6 件の指定がある。

特別史跡・・・・・・・・江戸城跡（参考資料 1 参考 4）

国指定重要文化財・・・・桜田門

田安門

清水門

旧近衛師団司令部庁舎

国指定天然記念物・・・・江戸城跡のヒカリゴケ生育地



田安門



旧近衛師団司令部庁舎



桜田門



清水門

皇居外苑の国指定重要文化財

(4) 都市計画・防災計画における位置づけ

- ・都市計画法による「東京都市計画公園第 1 号中央公園」に含まれる。(参考資料 1 参考 5)
- ・千代田区都市計画では、都市計画施設の「都市計画公園・緑地」に指定され、用途地域は「第一種住居地域」に指定されている。
- ・防災計画上は、東京都震災対策条例に基づき、地区内残留地区（千代田区、秋葉原、上野地区）に位置づけられるとともに、千代田区の「災害時退避場所」に指定されている。
(参考資料 1 参考 6)
- ・千代田区地域防災計画（震災対策編）及び東京都地域防災計画（震災編）において、馬場先エリア及び北の丸公園第二・第三駐車場が、ヘリコプター災害時臨時離着陸場候補地に選定されている。(参考資料 1 参考 7)
- ・関係省庁の申し合わせにより、首都圏直下型等大規模地震発生時の閣僚の参集のためのヘリコプター活用の際の緊急時離発着場の候補地となっている。

2. 皇居及び皇居外苑の自然環境

(1) 皇居の自然と生物相

①皇居の自然の概要・経緯

- ・現在の皇居では、全体の面積 115ha の相当な部分を、樹林、草地、濠、池が占めており、特に吹上御苑の森は、皇居の森の中心的存在となっている。
- ・皇居付近は、武蔵野台地の東端に位置し、台地と小河川の入り組んだ地形で、東側は東京湾の海に面していた。
- ・江戸城築城に伴い、吹上御苑は屋敷の敷地となり、明治期まで庭園として管理・利用されてきた。
- ・吹上御苑内の広葉樹の森は、江戸時代や明治時代以降に庭園樹として植栽された樹木に、本来この地に自生する樹木が加わり、それぞれが生長し成立したものであり、樹齢 300 年を超える巨木も存在する。

②皇居の自然の現況

- ・現在の吹上御苑は、シイ・カシ等の常緑広葉樹を中心とする豊かな樹林に覆われている。
- ・東御苑の二の丸には、1983(昭和 58)年に昭和天皇のご発意により「武蔵野の森」を再現した雑木林が造成され、2002(平成 14)年に上皇陛下のご発意により隣に新しい雑木林が拡張され、きめ細かな管理がなされている。
- ・そのほか、濠や池の水域や湿地帯等の多様な環境が存在し、都市に適応した種が見られる一方で、都心では見られなくなった動植物も多数生息・生育し、都内随一の豊かで多様な自然環境が広がっている。

③皇居の生物相

- ・国立科学博物館が 1996（平成 8）年度から 2013（平成 25）年度までに、2 期にわたって皇居内のモニタリング調査を実施。
- ・調査の結果、動物約 4,400 種、植物・藻類・菌類など約 1,600 種、合計約 6,000 種が記録された。
- ・日本で初めて記録された種や新種、都区内では絶滅したとされていた種、絶滅が危惧されている種（ベニイトトンボ、オオミズスマシ、ヒキノカサ等）も確認されている。

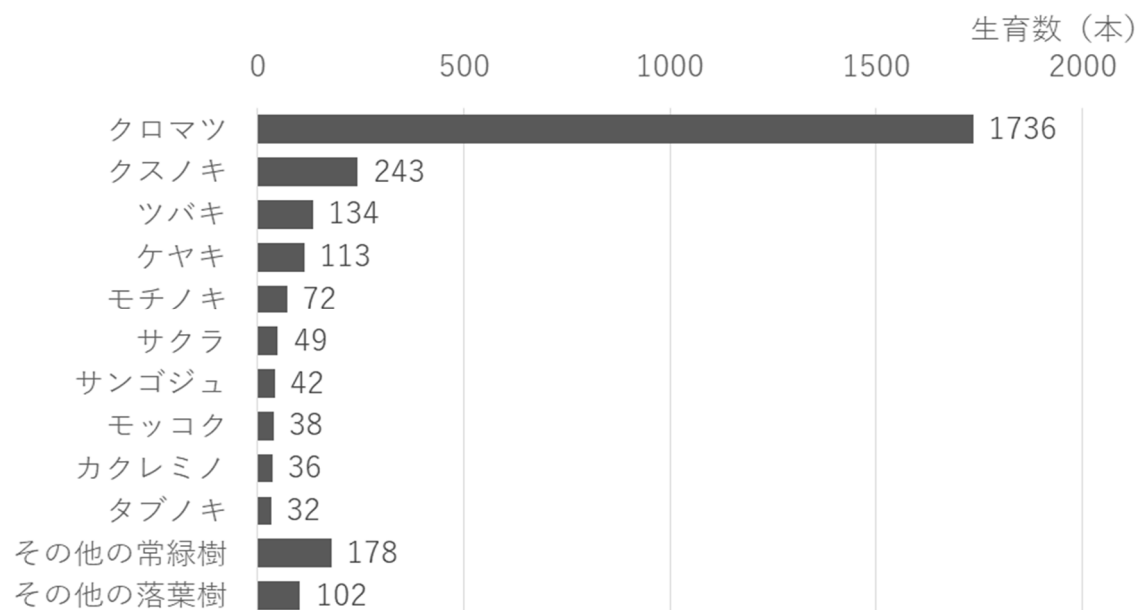
参考：皇居外苑照明のあり方に関する夜間景観基本計画（平成 28 年 2 月）関係資料集をもとに作成

(2) 皇居外苑の自然環境

①自然環境の概要

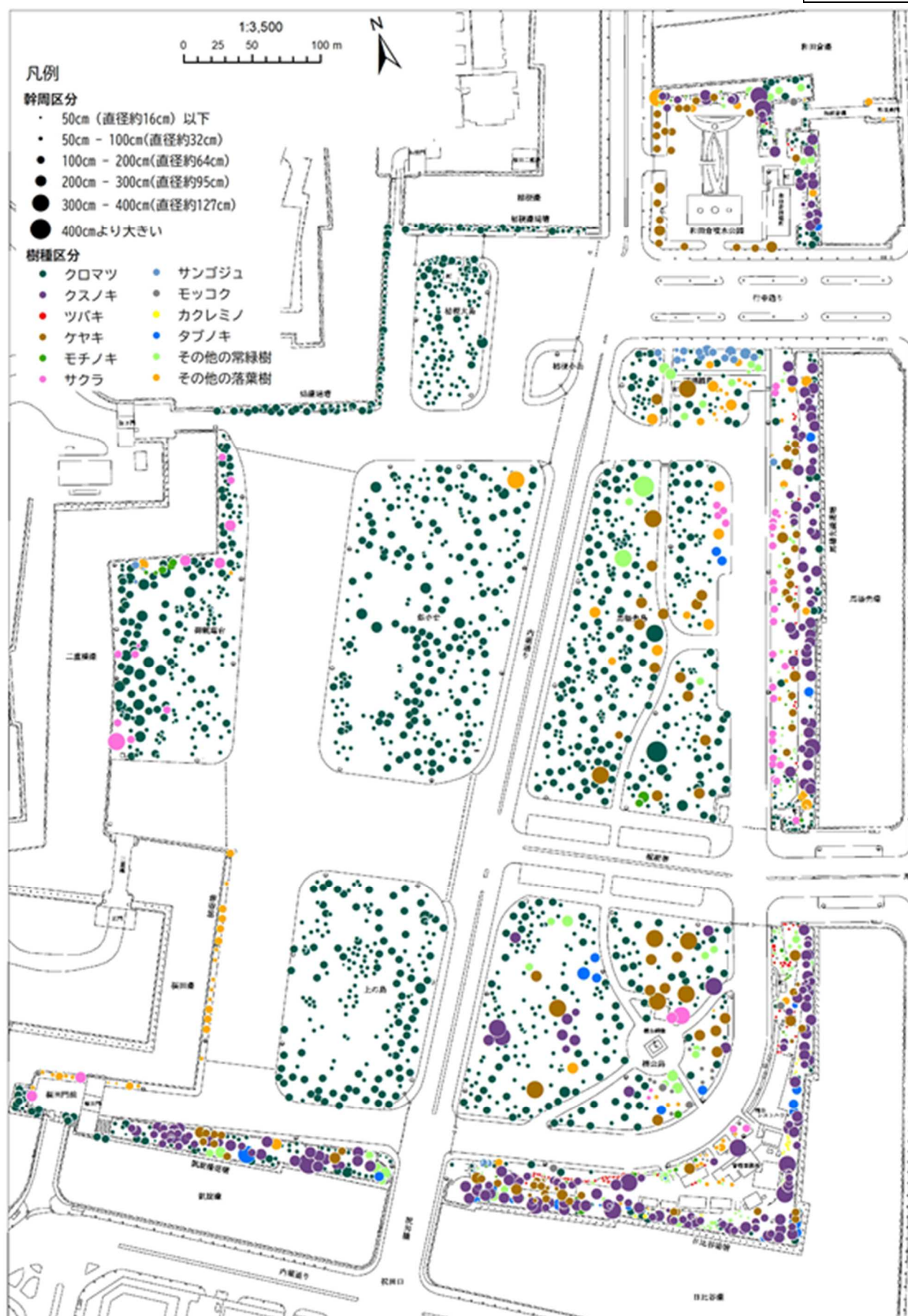
- ・皇居外苑地区付近はもともと東京湾の日比谷入江だったが、江戸城築城時に入江を埋め立て、幕府重臣の屋敷地及び江戸城の濠として整備された場所である。
- ・皇居外苑地区の緑の多くは明治期以降の植栽に由来し、令和元(2019)年現在で計 2775 本、80 種類近くの高木が生育している。広場にはクロマツの疎林と芝生、濠の堤塘上には、クロマツのほか、クスノキ、ツバキ類、マテバシイ等の常緑広葉樹や、ケヤキ、サクラ類等からなる樹林植生が見られる。
- ・内堀通りを境に、西側の広場にはクロマツ以外の樹種はほとんど植えられていないが、東側には、クロマツのほか、クスノキ・タブノキ・モッコク等の常緑広葉樹、ケヤキ・サクラ類等の落葉広葉樹が混在している。
- ・桜田濠、半蔵濠などの堤塘は、江戸時代から継続的に草地として管理されている。
- ・北の丸地区の緑は、昭和 38 (1963) 年以降の森林公園としての整備の際の植栽に由来し、クスノキやスダジイの常緑広葉樹林、ケヤキ、コナラ等の落葉広葉樹林、芝生、池等の環境が整備されている。
- ・12 の濠は江戸時代に造成され、都心部では最大の内水面である。ジュズカケハゼ、モツゴなどの在来魚が生息し、桜田濠、牛ヶ淵、蛤濠、桔梗濠等では水生植物も見られる。冬期には、キンクロハジロ、ヒドリガモ等の水鳥が多数飛来している。
- ・ヘイケボタル(牛ヶ淵・蛤濠・桔梗濠)や、国指定天然記念物のヒカリゴケ(千鳥ヶ淵)、そのほか、環境省レッドリスト掲載種のツツイトモやベニイトトンボ等、都心部では見ることが難しくなった様々な生物が生息・生育している。

(参考資料 1 参考 8)



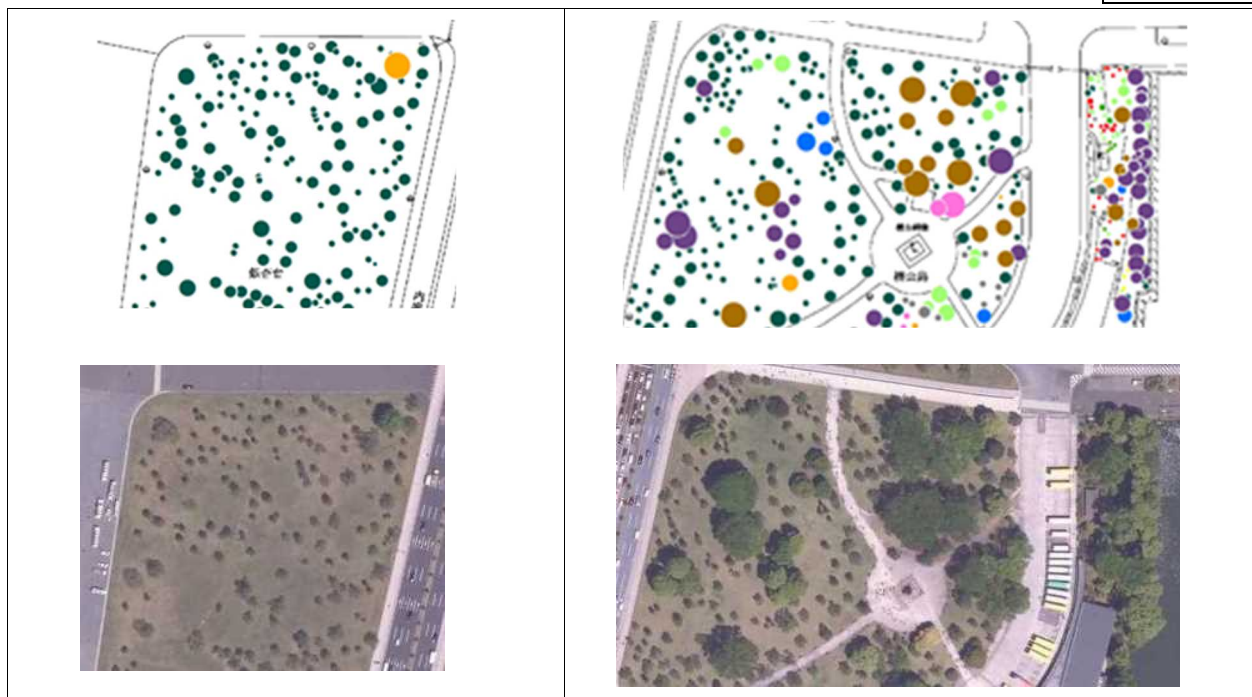
皇居外苑地区に生育する樹木(高木)の種類・本数(令和元(2019)年現在)

皇居外苑管理事務所提供資料をもとに集計



皇居外苑地区の樹木配置状況

皇居外苑管理事務所提供資料をもとに作成



拡大図：正門前広場の一部

拡大図：楠公エリアの一部

写真の出典：「国土地理院撮影空中写真 2019 年」（国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス）

②皇居外苑地区の生物相

- ・皇居前広場には、明治期以降に整備された黒松と芝生を主体とした植生が広がっており、皇居外苑地区を特徴づける文化的景観として重要なものである。また、楠公エリア及び馬場先エリアの芝生地東側に植栽されたケヤキやタブノキが大きく成長し、緑陰を作っている。
- ・濠沿いの堤塘には、クスノキ、ケヤキ等からなる植栽由来の樹林植生が帯状に続き、低木類・草本類が林床を覆っている。
- ・濠の水域は近年、水質の改善とともに急速に様相を変えつつあり、ホザキノフサモ、ツツイトモ、エビモ等の沈水植物が優占する水域が拡大している。平成 27（2015）年 10 月時点で、桜田濠、二重橋濠、蛤濠、桔梗濠、凱旋濠には沈水植物が優占し、大手濠の一部でも生育が確認されている。
- ・濠には多くの水鳥が飛来し、カルガモやオオバン等の留鳥、キンクロハジロ、オカヨシガモ等の冬鳥も見られる。

〈ヘイケボタル〉

- ・皇居外苑地区の濠に生息する特徴的な生物として、ヘイケボタルが挙げられる。桔梗門付近や牛ヶ淵で生息が確認されている。
- ・皇居外苑のヘイケボタルは、DNA 検査の結果、皇居内の個体群とは異なり関東南部の他の在来個体群と遺伝的に近いことから、地域在来の個体群である可能性がある。

参考：皇居外苑照明のあり方に関する夜間景観基本計画（平成 28 年 2 月）関係資料集をもとに作成

(3) 濠水浄化の取組み

①これまでの主な取組み

- ・環境省が管理する皇居外苑にある 12 の濠では、昭和 40 年代以降玉川上水の余水供給停止等も受け、アオコの大量発生等が課題となり、以下の水質改善対策を講じてきている。

濠水浄化設備の整備・稼働（平成 7（1995）年）

かいぼり（牛ヶ淵：平成 15（2003）・21（2009）年 千鳥ヶ淵：平成 28（2016）年）

新たな浄化設備の稼働（平成 25（2013）年）

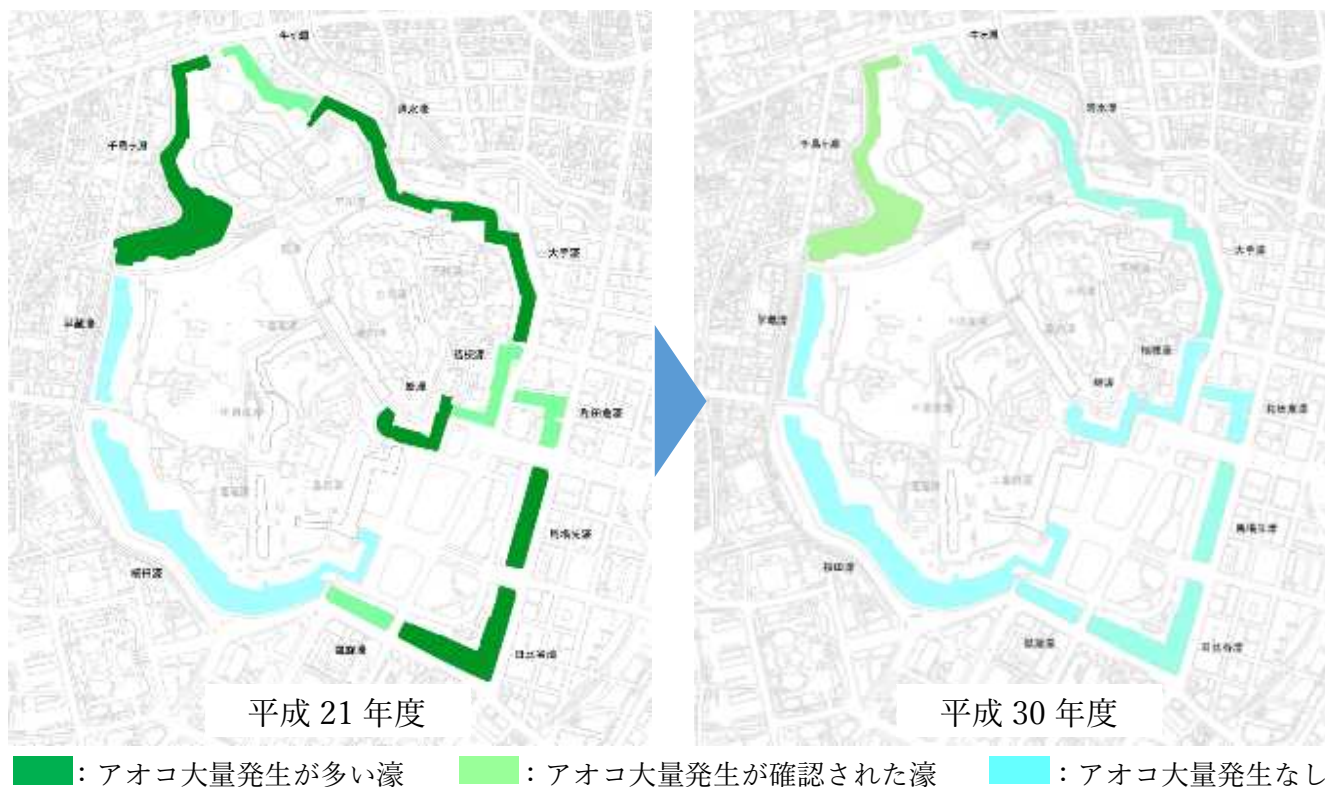
東京都への働きかけによる下水道からの雨天越流防止工事推進（平成 28（2016）年）

フサモ、ハス等の水生植物の刈取り実施（年 2～3 回程度）

民間ビル地下の浄化設備での濠水貯留・浄化

②更なる取組み

- ・平成 30（2018）年度に現浄化施設に汚泥処理設備を追加、平成 31（2019）年 4 月から稼働を開始し、施設の機能向上を進めている。
- ・雨水等のほか、新たな水源として周辺工事現場（九段会館）の地下水等を受け入れている。



アオコの発生状況の比較

参考・図の出典：皇居外苑管理事務所提供資料

3. 皇居外苑地区の文化的景観

(1) 文化的景観としての皇居外苑地区

- ・ 文化的景観は、人間と自然との相互作用によって歴史的に形成され生み出された人類共通の文化的資産として、世界遺産条約において国際的に認められているものである。世界遺産条約履行のための作業指針では「文化的資産であって、条約第1条のいう「自然と人間との共同作品」に相当するもの」「人間社会又は人間の居住地が、自然環境による物理的制約のなかで、社会的、経済的、文化的な内外の力に継続的に影響されながら、どのような進化をたどってきたのかを例証するもの」⁶とされる。
- ・ 皇居外苑地区は、日比谷入江の海岸だった場所が埋め立てられ、江戸時代には大名屋敷として使われていた場所である。しかし、明治期の皇居御造営以降、国民に向けて皇居正門前の尊厳を保つ目的から、海岸の自然景観を代表する白砂青松の主木として「最も然るべき」とされた黒松をはじめとする、地域在来の樹種を主体とした樹木が植栽され、手入れが施されてきた。
- ・ このような、自然と調和しながら形成され、今日まで手をかけ受け継がれてきた白砂青松という皇居外苑地区の風景は、日本の首都東京における主要な文化的景観といえる。



皇居外苑地区にみる黒松と芝生からなる景観

写真提供：石川幹子氏

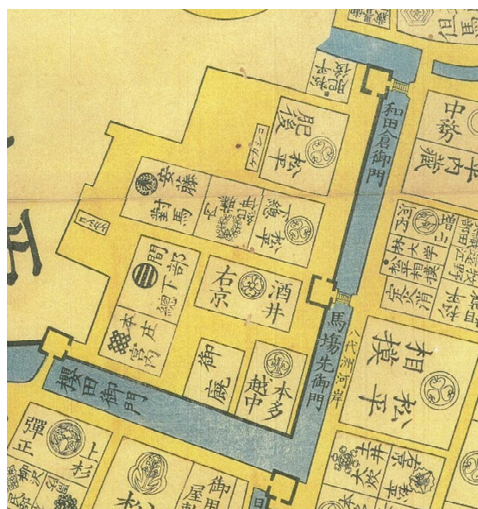
⁶ 原文：Operational Guidelines for the Implementation of the *World Heritage Convention* (WORLD HERITAGE CENTRE 2019)

皇居外苑地区における大正～昭和初期の樹木の主な確認記録（数字は本数）

大正 11 (1922) 年 4 月実測 計 2128 本	<u>平地部</u> 計 13 種 1285 本	マツ 868 ヤナギ 173 シイ 106 セイドル 89 アカシヤ 21 エノキ 8 カシ 5 サクラ 4 カエデ 4 ミズキ 2 ウメ 2 モチ 1 イチョウ 1
	<u>堤上</u> 計 7 種 647 本	マツ (在来木) 155 同 (補植) 439 エノキ 35 ムクノキ 9 アカシヤ 6 シイ 2 モチ 2 クリ 1
	<u>林野局構内</u> 計 10 種 196 本	マツ 82 カナメモチ 59 ヒノキ 12 ヒバ 11 シイ 11 コノテガシワ 6 モミ 5 アオギリ 4 多行松 3 カキ 2
昭和 3 (1928) 年 1 月実測 計 1901 本	<u>平地部</u> 計 16 種 1124 本	マツ (大・中) 675 同 (小) 26 ヤナギ 219 ヒマラヤシーダー 92 シイ 42 アカシヤ 34 カシ 6 エノキ 6 コノテガシワ 4 カナメモチ 5 アカメガシワ 3 イチョウ 2 サクラ 3 モチノキ 2 モミジ 2 ラカンマキ 1 ヤツデ 2
	<u>濠沿土堤</u> 計 10 種 777 本	マツ (大) 125 同 (中) 46 同 (小) 547 エノキ・ムクノキ 41 シイ 2 モチノキ 2 イボタ 10 クリ 1 イチョウ 1 モミジ 1 カシワ 1
昭和 4 (1929) 年 (外苑全体で 計 2283 本)	<u>中央道路より東側 芝生地</u> 計 4 種 100 本を 補植	ヤマザクラ 24 モミジ 30 ケヤキ 26 イチョウ 20

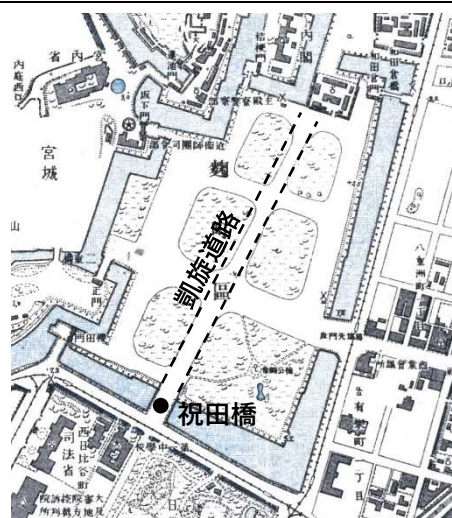
出典：「皇居外苑誌（皇居外苑風致考）」（昭和 43 年 池辺武人）

(2) 皇居外苑地区の景観形成の経緯



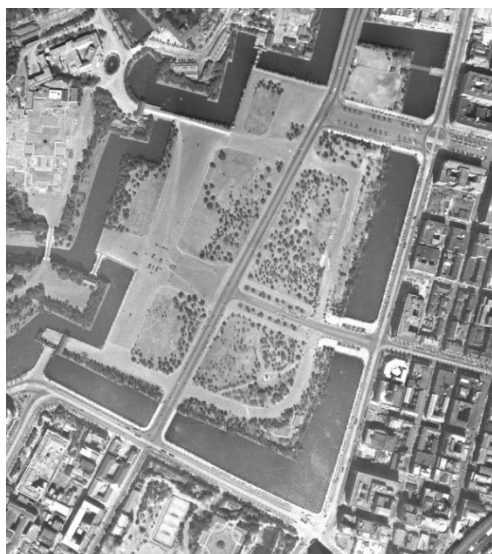
①江戸期（安政 6（1859）年）

- ・江戸城築城とともに日比谷入江が埋め立てられる。
- ・濠で囲まれた土地（西丸下）に大名屋敷がおかれていた。



②明治 42（1909）年

- ・皇居御造営により建物は撤去され、皇居正門前の尊厳を保つ目的で、マツ、ヤナギ、カエデ等の植栽と張芝が行われた。
- ・広場を南北に通る凱旋道路と祝田橋は明治 38（1905）年に建設された。



③昭和 24（1949）年

- ・昭和 14（1939）年からの紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業により、黒松を主体とする現在の白砂青松の風景が整う。



④令和元（2019）年

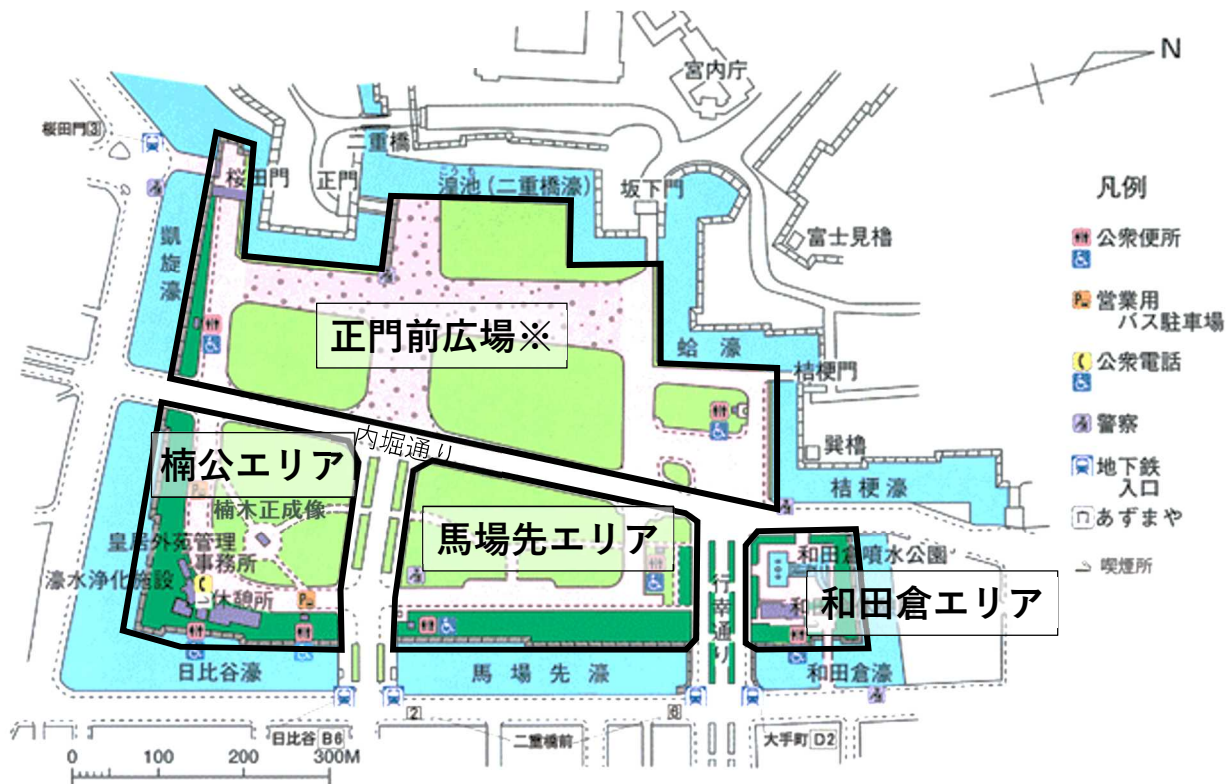
- ・明治期の皇居御造営以来、海岸の自然景観に見立てた白砂青松の風景が継承されている。

図・写真の出典

- ①：「分間江戸大絵図完」（地図版元 須原屋）
 ②：「旧 1 万分 1 地形図 日本橋（o152）（1909 年測量）」（国土地理院 1910 年発行）
 ③：「米軍撮影空中写真 1949 年」（国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス）
 ④：「国土地理院撮影空中写真 2019 年」（国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス）

4. 地区別の特性・状況

(1) 皇居外苑地区 (面積 46.5ha)

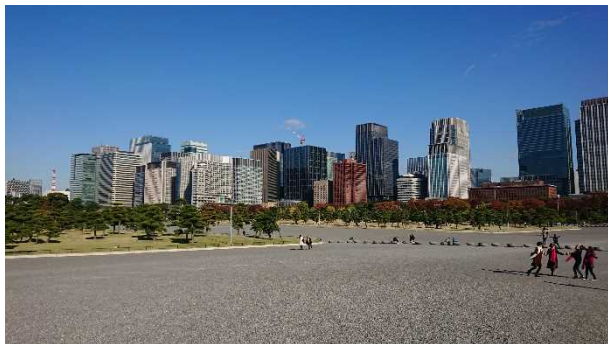


本資料における皇居外苑地区各所の名称

※正門前広場：本資料では、皇居正門前の砂利敷、黒松、芝生からなる広場を指す。坂下門、桔梗門、桜田門前の舗装部分も含む。

①正門前広場

- ・砂利敷と黒松植栽の芝生地が調和し、荘厳かつ明るい景観が創出されている。
- ・日本を代表するシンボリックな場として皇居参観者を中心に多くの来園者があり、近年は外国人観光客の占める割合が増加している。
- ・国賓の宮中参内や新任大使の信任状捧呈式の際は、通常は閉ざされている皇居正門から馬車列等が出入する特別な光景が見られる。
- ・天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典をはじめ、皇居外苑における国家的行事の主要な開催場所として利用されている。
- ・桜田門は江戸城の特徴である枡形門の形態を保ち、国の重要文化財に指定されている。
- ・桜田門から内堀通りに至る空間は皇居一周ランニングの起終点として利用されている。



砂利敷の広場



黒松と芝生地



二重橋を望む景観ポイント



二重橋前を訪れる観光客

②^{なんこう}楠公エリア

- ・黒松植栽の芝生地を中心に、日比谷濠に面した南側及び東側は、クスノキ、タブノキ、ケヤキ、イチョウ等の樹林帯となっている。
- ・芝生地が昼間は一般開放されているほか、中央部に楠木正成公の銅像（楠公銅像）があり、休憩所、観光バス専用駐車場、売店等が整備され、皇居参観利用者及び散策利用者の休憩拠点となっている。
- ・皇居外苑管理事務所、濠水浄化施設等の管理施設が集まる。
- ・南側に、日比谷濠、晴海通りを挟んで都立日比谷公園が隣接している。



楠木正成の銅像



観光バス専用駐車場

③馬場先エリア

- ・黒松植栽の芝生地を中心に、馬場先濠に面した東側は、クスノキ、タブノキ、ケヤキ、イチョウ等の樹林帯となっている。
- ・芝生地が一般開放されているほか、歩道沿いのベンチは散策利用者や近隣ビル街に勤める人達の休憩の場として利用されている。
- ・日曜日にはパレスサイクリング（祝田橋－平川門間の道路を自転車用に特別開放）の拠点として利用されている。
- ・北側の和田倉地区との間の行幸通りで東京駅に直結している（東京駅まで約 400m）。



黒松植栽と芝生地



散策・休憩場所として利用される歩道

④和田倉エリア

- ・昭和 27（1952）年に大蔵省から厚生省に所管換となって皇居外苑に編入され、昭和 36（1961）年に明仁皇太子（現在の上皇陛下）ご成婚を記念して造られた噴水庭園を、徳仁皇太子（今上天皇）のご成婚を機に平成 5（1993）～6（1994）年度に和田倉噴水公園として再整備したものである。
- ・レストラン、情報コーナーを併設する休憩所もリニューアルし、来訪者の憩いの場として親しまれている。
- ・かつての和田倉門の渡^{わたりやぐら}櫓跡の石垣が遺構として残る。



噴水施設



休憩所（レストラン・情報コーナー等）

(2) 北の丸地区 (面積 19.3ha)



- ・昭和 38 (1963) 年から森林公園として整備し、皇居外苑の一部として昭和 44 (1969) 年 4 月から一般に公開された地区である。
- ・芝生地、池、落葉高木疎林、鳥類誘致林、花木林等を配置し、公園利用と森林としての環境維持に配慮されている。
- ・濠に面した外周部には、クスノキ、タブノキ、スダジイ、エノキ等の大径木が配置され、皇居の森との連続性が図られている。
- ・休憩所、公衆便所、管理事務所等の公園施設のほか、日本武道館、科学技術館、東京国立近代美術館及び同工芸館⁷ (旧近衛師団司令部庁舎)、国立公文書館等の教養又は公益施設がある。
- ・散策、休憩利用のほか、教養・公益施設利用者による付随的利用も多いため、特定の日に利用者が集中する傾向がある。
- ・敷地内の田安門及び清水門、旧近衛師団司令部庁舎は国の重要文化財に指定されている。



公園利用と森林としての環境維持

⁷ 工芸館は本年 10 月に石川県金沢市に移転予定。

5. 利用者の動向

(1) 皇居外苑地区

- ・二重橋前付近での皇居参観を主体とした観光利用や近隣ビル街に勤める人達による散策・休憩利用や、桜田門前を集合場所としている皇居一周ランニングの利用が多い。
- ・特に近年は外国人観光客による二重橋前や楠公銅像付近の利用が多い。



多くの観光客で賑わう二重橋前



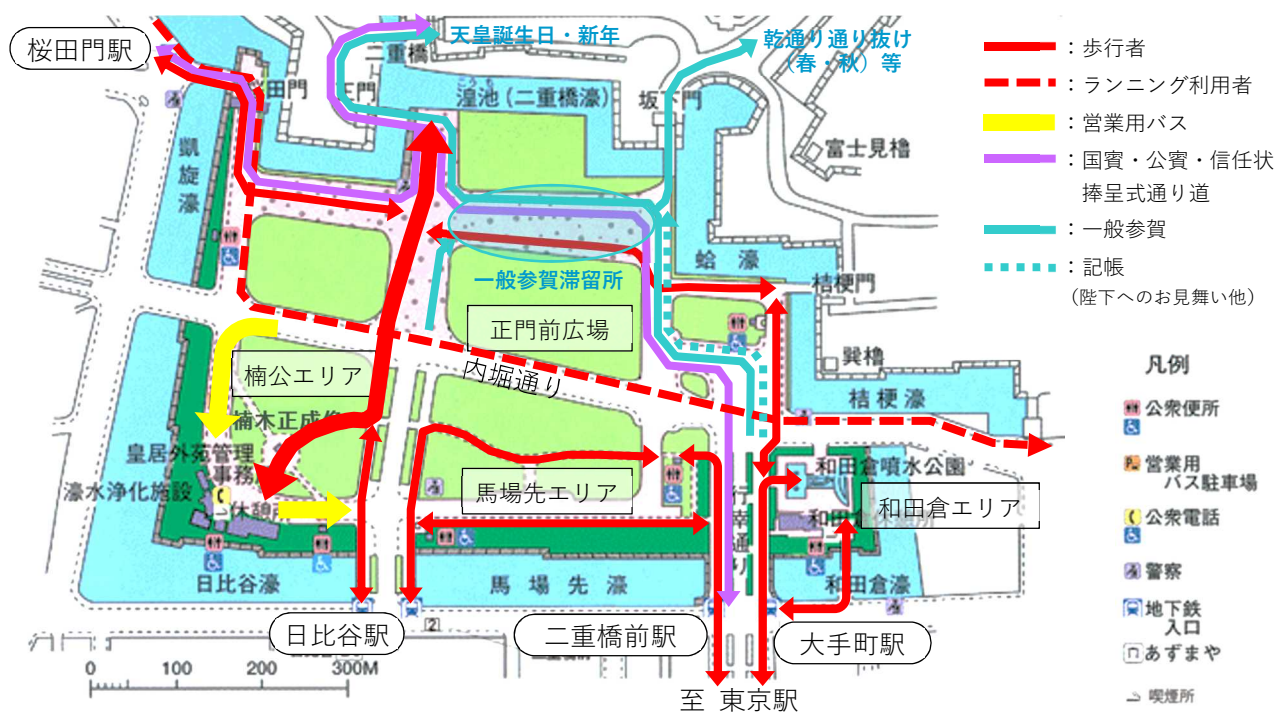
楠公エリアの芝生地でくつろぐ来訪者



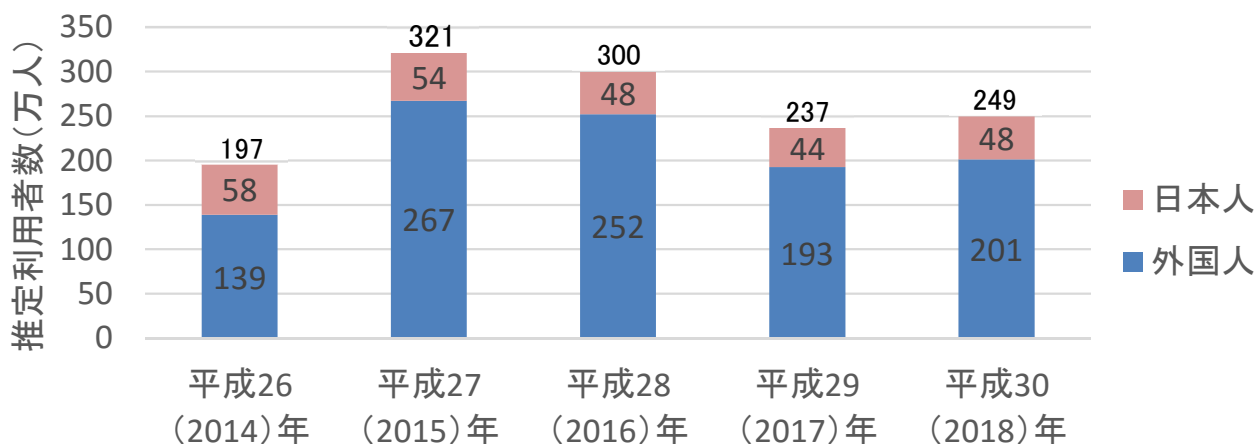
馬場先エリアでの休憩利用



皇居一周ランニングの拠点となる桜田門前



皇居外苑地区利用者の主な動線



楠公エリア駐車場の推定利用者数※

※大型営業用バスの駐車場利用台数×45人（大型バスの標準的な乗車定員数）で算出
皇居外苑管理事務所提供資料をもとに作成

参考 地点別の利用状況

地点 No.	該当地区名	利用者数	利用形態別の利用者数割合			利用密度		団体利 用者率	写真撮影	
			観光・散策	休息	マラソン等	利用者数密度	利用者数密度 の段階区分		撮影者数	撮影者数密度
1	バス専用駐車場	216人	64.8%	34.3%	0.9%	0.05人/㎡	Ⅱ	54.2%	5人	0.01人/㎡
2	楠公島北部	210人	50.0%	49.0%	1.0%	0.05人/㎡	Ⅱ	45.2%	0人	0人/㎡
3	楠公島南部	25人	16.0%	84.0%	0.0%	0.02人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡
4	楠公銅像	218人	90.8%	9.2%	0.0%	0.17人/㎡	V	82.6%	41人	0.03人/㎡
5	楠公島西北部	258人	2.7%	96.9%	0.4%	0.02人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡
6	楠公島南西部	71人	1.4%	98.6%	0.0%	0.04人/㎡	Ⅱ	0.0%	0人	0人/㎡
7	楠公島西部	61人	11.5%	88.5%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡
8	桜田橋	147人	2.7%	24.5%	72.8%	0.04人/㎡	Ⅱ	54.4%	0人	0人/㎡
9	桜田門内	306人	5.6%	24.8%	69.6%	0.11人/㎡	Ⅳ	53.9%	4人	0.01人/㎡
10	桜田門外	58人	67.2%	8.6%	24.1%	0.04人/㎡	Ⅱ	0.0%	8人	0.01人/㎡
11	二重橋前南部	38人	92.1%	7.9%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡
12	二重橋前	543人	96.3%	3.7%	0.0%	0.11人/㎡	Ⅳ	64.5%	230人	0.05人/㎡
13	二重橋前東部	228人	97.4%	2.6%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	83.3%	23人	0.01人/㎡
14	二重橋前北部	143人	99.3%	0.7%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	60.8%	2人	0.01人/㎡
15	坂下門前	27人	100.0%	0.0%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	0.0%	8人	0.01人/㎡
16	桔梗島南部	34人	70.6%	29.4%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	29.4%	0人	0人/㎡
17	桔梗門前	136人	91.9%	8.1%	0.0%	0.04人/㎡	Ⅱ	0.0%	0人	0人/㎡
18	桔梗島東部	218人	89.9%	4.1%	6.0%	0.06人/㎡	Ⅲ	73.9%	22人	0.01人/㎡
19	和田倉噴水	349人	21.5%	74.2%	4.3%	0.06人/㎡	Ⅲ	0.0%	33人	0.01人/㎡
20	珊瑚樹島	180人	15.6%	83.9%	0.6%	0.03人/㎡	Ⅱ	0.0%	0人	0人/㎡
21	馬場先島東部	138人	16.7%	82.6%	0.7%	0.01人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡
22	馬場先島北部	194人	4.1%	95.9%	0.0%	0.03人/㎡	Ⅱ	0.0%	0人	0人/㎡
23	馬場先島南部	149人	12.8%	86.6%	0.7%	0.02人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡
24	馬場先島西部	256人	2.7%	97.3%	0.0%	0.01人/㎡	Ⅰ	0.0%	0人	0人/㎡

調査の概要

- ・皇居外苑地区内の24箇所に観察地点を設定
- ・30分ごとに、利用者数、利用形態等を観察記録するサンプリング調査を実施
- ・調査日は平成14(2002)年7月10日(水)9時～17時

※利用者数密度の段階区分

- Ⅰ: 0.03人/㎡未満
- Ⅱ: 0.03人/㎡以上、0.06人/㎡未満
- Ⅲ: 0.06人/㎡以上、0.09人/㎡未満
- Ⅳ: 0.09人/㎡以上、0.12人/㎡未満
- V: 0.12人/㎡以上

出典:「皇居外苑国民公園における利用空間の構造に関する研究」東海林克彦 ランドスケープ研究 66(5)

(2) 北の丸地区

- ・多様な森林や芝生広場を活用した散策・休憩利用が中心である。
- ・ジョギング利用、学生の課外活動、歴史的遺構の観光等による利用も見られる。
- ・4～5月の桜の時期及び10～11月の紅葉の時期に利用者が多い。
- ・日本武道館、科学技術館は苑内の園路を必然的に進入路として使用する位置にあるため、これら施設の利用と公園利用、苑内駐車場利用との関わりが強い。



散策・休憩の場となる森林や芝生広場



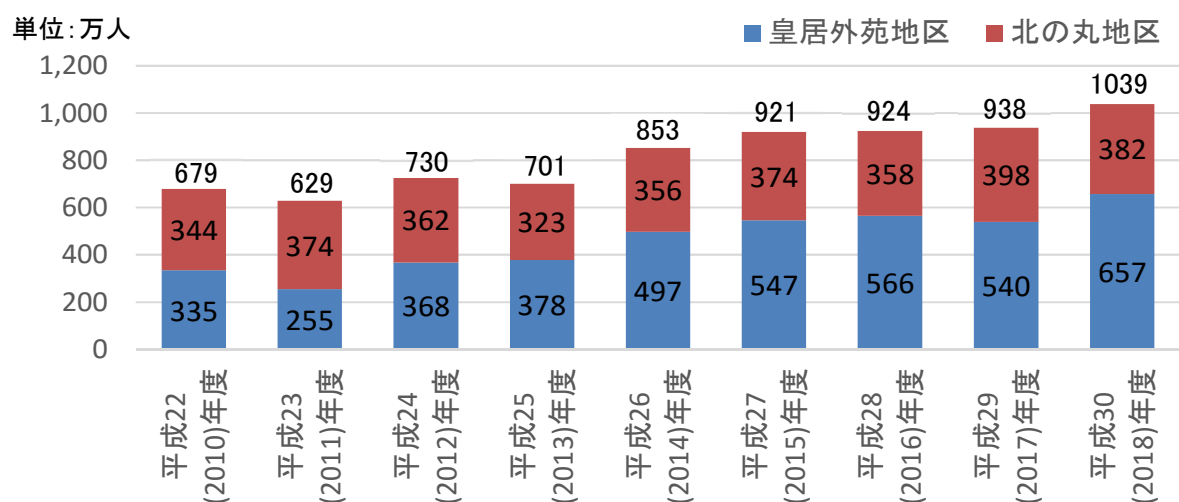
歴史的遺構の観光利用（田安門）



桜の時期の賑わい



科学技術館



皇居外苑の利用者人数推計※

※皇居外苑管理事務所において、駐車場等利用者数、一般参賀一般参観者数、施設等の利用者数、巡視による目視カウント数などにより推計

(3) 皇居（一般参観）

- ・宮内庁では、桔梗門を起終点として、山下通り、宮殿、正門鉄橋（二重橋）などを巡るガイドツアーを、毎日午前 1 回午後 1 回、各回 500 人程度を定員として開催している。
- ・参観者数は平成元（1989）年に 3 万人を下回るが、インターネット申込み導入、ガイドの多言語化、音声ガイドアプリ導入などにより、近年は参観者数が増加傾向にある。
- ・特に外国人の参観者数が急増している。

(参考資料 1 参考 9)

(4) 皇居東御苑

- ・宮内庁が管理し、月曜日と金曜日を除く日の午前 9 時から夕方まで一般公開している。
- ・昭和 43（1968）年に開園し、平成 30（2018）年には累計入園者数 3,000 万人を超えた。
- ・皇居一般参観の参観者数と同様に、近年は外国人入園者の増加に伴い入園者数と外国人比率が増加している。
- ・皇居一般参観と同様の音声ガイドアプリを導入し、園内案内の充実を図っている。

(参考資料 1 参考 9)

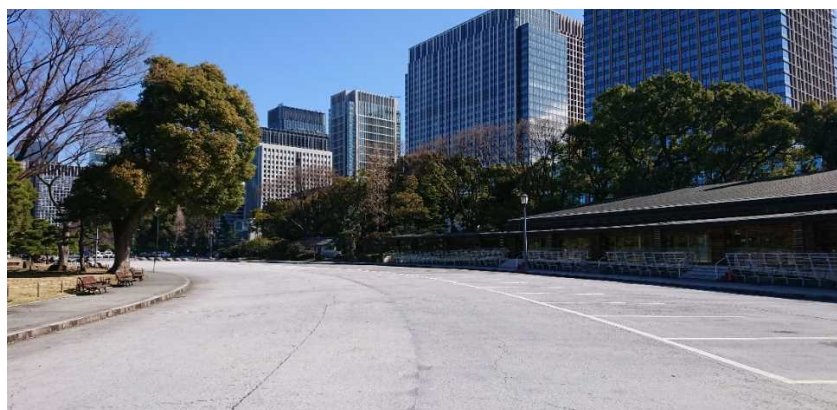
(5) 皇居外苑の直近の利用状況

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、本年 4 月の訪日外客数は前年同月比-99.9%、本年 1 月～4 月の総数も前年同期比-64.1%と大幅に減少した。
- ・皇居外苑の来訪者も大幅に減少し、特に外国人利用者の割合が大きい楠公エリア駐車場では大型観光バスの利用がほとんど見られなくなっている。

訪日外客数の推計値

総数（人）			総数（人）		
2019 年 4 月	2020 年 4 月	増減率 (%)	2019 年 1 月～4 月	2020 年 1 月～4 月	増減率 (%)
2,926,685	2,900	-99.9	10,980,482	3,942,800	-64.1

出典：「月別・年別統計データ（訪日外国人・出国日本人）」日本政府観光局ホームページ
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/



利用が大幅に減少した楠公エリア駐車場（2020 年 3 月 12 日撮影）

6. 利用に関する取組み

(1) 利用者への情報発信の取組み

- ・環境省（皇居外苑管理事務所）で利用者に向けて行っている皇居外苑や周辺地域に関する情報発信の主な取組みとしては、以下のものがある。（（一財）国民公園協会が実施しているものも含む）

発信媒体	主な情報の種類
印刷物	・ 皇居外苑の案内・啓発パンフレット「皇居外苑」
	・ 「皇居外苑」 英文パンフレット
	・ 北の丸公園イラストマップ
	・ 「自分歩きマップ」「自然歩きマップ」（（一財）国民公園協会作成）
案内板等	・ 公園主要入口部への案内板 45 基の設置（誘導標識含む）
	・ 規制看板 12 基の設置
	・ 皇居外苑紹介ビデオ放映（和田倉休憩所展示コーナー）
ウェブ サイト等	・ 皇居外苑管理事務所ウェブサイトによる基本情報等発信 （公園案内、施設等紹介、管理・利用関連情報、皇居外苑ニュース（ブログ）、フォトアルバム、関連ウェブサイトリンク集等）
	・ （一財）国民公園協会 皇居外苑ウェブサイトによる各種情報発信 （皇居外苑の自然・歴史、食事・お土産、各種お知らせ等）
	・ Twitter「国民公園協会 皇居外苑 広報」による自然や景色、周辺施設・イベント等のタイムリーな情報の発信

(2) 周辺施設等との管理運営・利用上の連携の取組み

- ・環境省（皇居外苑管理事務所）では、（一財）国民公園協会の活動にも協力しながら、以下のような周辺施設・関連団体等との連携の取組みを行っている。

連携の取組み	連携先
ホタルの生育地を守る「牛ヶ淵地域ルール」の策定 平成 26 年～現在	千代田区/九段坂病院/千代田会館/ 九段会館
日比谷公園の今後の取組に関する意見交換会 平成 31 年 3 月	東京都建設局
千代田区生物多様性推進会議への委員参画 平成 23 年 9 月～現在	千代田区
千代田区景観まちづくり審議会への委員参画	千代田区
東京文化財ウィークへの参加	東京都教育委員会
「皇居周辺・日本橋エリア アートマップ」製作協力 平成 31 年 3 月～現在	(独) 日本芸術文化振興会/文化庁
「濠プロジェクト」への協力 平成 30 年～現在	(株) 三菱地所/(公財) 日本自然保護協会
「丸の内朝大学」の開催協力 平成 24～30 年	丸の内朝大学企画委員会 ((一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、エコッツェリア協会(一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会)、NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会)
北の丸公園入口のイベント開催共通案内看板の設置	日本武道館/科学技術館
北の丸地域周辺整備構想基本計画策定 平成 28 年度	千代田区
まちの魅力向上に向けた道路等の公共空間活用検討会(皇居周辺地域委員会)に参画し「皇居周辺歩道利用マナー」を策定 平成 23 年 12 月～25 年 6 月	千代田区/警視庁/東京国道事務所/東京都建設局/利用団体等
歴史・文化紹介看板(櫻田門、馬場先門等)の整備 平成 29 年度	千代田区

7. 使用許可（環境大臣等許可）の実績等

国民公園指定後の国家的行事としての許可事例

平和条約発効並びに憲法施行 5 周年記念式典		昭和 2 7（1952）年 5 月 3 日
【主催】 総理府	【開催内容・場所】 式典：皇居前広場	
－備考－ 天皇皇后両陛下ご臨席。		
オリンピック東京大会聖火歓迎式典		昭和 3 9（1964）年 1 0 月 9～1 0 日
【主催】 東京都	【開催内容・場所】 仮設聖火台設置：皇居前広場	
－備考－		
天皇陛下御即位奉祝にかかる皇居外苑における集会		平成 2（1990）年 1 1 月 1 7 日
【主催（申請者）】 天皇陛下御即位奉祝国会議員連盟 天皇陛下御即位奉祝委員会	【開催内容・場所】 祝賀式典：皇居前広場	
－備考－ 当該集会を「国家的行事」として許可。		
天皇陛下御即位十年をお祝いする国民祭典		平成 1 1（1999）年 1 1 月 1 2 日（金）
【主催】 天皇陛下御即位十年奉祝国会議員連盟 天皇陛下御即位十年奉祝委員会	【開催内容・場所】 ・祝賀式典：皇居前広場 ・祝賀パレード：内堀通り	
－備考－ 後援：総理府、外務省、東京都等の行政機関		
天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典		平成 2 1（2009）年 1 1 月 1 2 日（木）
【主催】 天皇陛下御即位二十年奉祝国会議員連盟 天皇陛下御即位二十年奉祝委員会	【開催内容・場所】 ・祝賀式典：皇居前広場 ・奉祝まつり：楠公・馬場先エリア ・奉祝まつり（パレード）：内堀通り	
－備考－ 後援：総理府、外務省、東京都等の行政機関		
天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典		令和元（2019）年 1 1 月 9 日（土）
【主催】 天皇陛下御即位奉祝国会議員連盟 天皇陛下御即位二十年奉祝委員会 公益財団法人日本文化興隆財団	【開催内容・場所】 ・祝賀式典：皇居前広場 ・奉祝まつり：楠公・馬場先エリア ・奉祝まつり（パレード）：内堀通り	
－備考－ 後援：内閣府、外務省、東京都等の行政機関		

その他の使用の例

- ・天皇誕生日一般参賀に伴う正門前広場利用（毎年のお誕生日）
- ・新年一般参賀に伴う正門前広場利用（毎年のお正月）
- ・国賓の宮中参内ほか宮内庁行事の際の正門前広場の通過使用（都度対応） など

参考 天皇陛下御即位奉祝委員会ウェブサイト <https://www.houshuku.org/>
 天皇陛下御即位二十年奉祝委員会ウェブサイト <https://www.houshuku.org/20th/>
 宮内庁ウェブサイト「一般参賀」<https://www.kunaicho.go.jp/event/sanga/sanga.html>
 皇居外苑管理事務所提供資料（未公表）